

# いざなみ

No.163  
2011年3月

## ＜所蔵資料（長崎ゆかりの文学）の紹介＞

「海狼伝」「島原大変」等を書いた佐世保北高校出身の直木賞作家故白石一郎や、「戦艦武藏」「ふおん・しいほるとの娘」等を書いた故吉村昭は、長崎を舞台とする小説や長崎にちなんだ隨筆を残した「長崎ゆかりの作家」です。

当館は、昨年、白石夫人の白石文子氏から白石一郎直筆原稿「異人館」と「島原大変」を、吉村夫人で芥川賞作家の津村節子氏から吉村昭直筆原稿「ロシア皇太子の刺青」と「『磔（はりつけ）』文庫のためのあとがき」をご寄贈いただきました。

白石の「異人館」は、朝日新聞に連載された幕末の商人トーマス・グラバーを描いた長編小説です。躍動感あふれる文章は、まさに熟練の筆を感じさせます。当館が所蔵する直筆原稿の中で最多の1,250枚を超える原稿に加えて、連載の開始にあたって書いた「私は長崎が好きで、これまで長崎を舞台にした数多い長編小説を書いてきたが‥‥」という文章や、16ものタイトル案から「異人館」を選んだ様子が残るメモ等もあります。

「島原大変」は、江戸時代の雲仙普賢岳の大噴火による島原の惨事に立ち向かった若き医師を描く物語です。作品が出版された6年後の平成3年、普賢岳は平成の大噴火を起こしました。



吉村の「ロシア皇太子の刺青」は、文春新書「史実を歩く」に所収されている「ニコライ遭難」の取材ノートです。当館の郷土資料展示室で偶然目にした資料は、吉村が長崎に求めていたニコライ皇太子の歴史の影の部分を炙（あぶ）り出すものでした。資料を読み込み、歴史の奥に鋭く切り込んでいく様子が、どきどきするような臨場感をもって記されています。「文庫のためのあとがき」は「磔（はりつけ）」の文庫版を文芸春秋から出版する際に書かれたもので、その中には「長崎は私が歴史小説を書くきっかけとなった土地」という文言が、吉村愛用の万年筆で綴られています。

いずれの原稿からも、長崎をこよなく愛した白石一郎、吉村昭という大作家の、誠実で真摯な生き方と優しさが偲ばれます。これらの貴重資料は、現在開催中の長崎ゆかりの文学展第4回企画展で展示紹介しています。

### もくじ

- |                            |       |     |
|----------------------------|-------|-----|
| ◎ 所蔵資料の紹介                  | ..... | P 1 |
| ◎ 長崎ゆかりの文学展 第4回企画展         | ..... | P 2 |
| ◎ 第21回県立長崎図書館講座            | ..... | P 2 |
| ◎ 第3回図書館実務研修会              | ..... | P 2 |
| ◎ 長崎県公共図書館等協議会表彰団体の紹介      | ..... | P 3 |
| ◎ シリーズ県内図書館散歩              | ..... | P 4 |
| ◎ シリーズ「大河ドラマ『龍馬伝』の舞台 幕末長崎」 | ..... | P 4 |
| ◎ 読書郵便集の取組紹介と第3号の紹介        | ..... | P 5 |
| ◎ 長崎県の子どもにすすめる本 500選の紹介    | ..... | P 5 |
| ◎ 職場体験活動紹介                 | ..... | P 5 |
| ◎ シリーズ100年の歩み、お知らせ、行事案内    | ..... | P 6 |



2012年、県立長崎図書館は創立100周年!!

長崎ゆかりの文学展 第4回企画展

## 収蔵品展 県立長崎図書館を訪れた文人たち ～昭和期の芳名録を中心に～を開催中！

県立長崎図書館は平成24年に創立100周年を迎えます。その歴史を刻む貴重な当館芳名録の中から、昨年度の「大正期の芳名録」に続き、今回は「昭和期の芳名録」にスポットを当てた収蔵品展を開催しています。紹介している県立長崎図書館を訪れた昭和期の文人たちは、白石一郎、吉村昭、司馬遼太郎、山本健吉、北原白秋、佐佐木信綱、広津和郎、堀田善衛、島尾敏雄、藤浦洸の10名です。

初公開の白石・吉村原稿の他、川端康成とも親交のあった山本健吉の川端追悼文の直筆原稿や、「心の花」を創刊した佐佐木信綱の長崎を詠



んだ短歌を記した直筆色紙、平戸出身で「西海讃歌」を作詞した藤浦洸の直筆原稿「郷里平戸」など、当館所蔵のお宝を含む約120点を展示紹介しています。希望者には、当企画展の葉を配付しますので、4階郷土課カウンターへお申し出ください。

昭和39年5月、39歳で来館した司馬遼太郎は、芳名録に「長崎の夢見ゆなれば 和蘭陀眼鏡 買ひたしや」という言葉を添えています。芳名録は、文学史に名を残す偉大な文人たちが長崎に残した貴重な筆跡です。ぜひ本物をご覧ください。4月10日（日）まで。

## 第21回県立長崎図書館講座

好評のうちに終了

国民読書年記念企画として、昨年11月6日（土）に「長崎の子どもの本の作家たち～黒崎義介・太田大八・福田清人・おおえひでの中心に～」と題して開催しました。講師に、本県を代表する児童文学研究家で九州龍谷短期大学教授の二羽史裕氏をお招きし、長崎の子どもの本の作家たちについてわかりやすく紹介していただきました。

受講者からは、「児童文学の歴史を通して児童文学のもつ大切な意味を認識することができました。」「楽しい時間でした。今日ご紹介いただいた本を読んでみたいと思いました。」等の感想が寄せられ、好評でした。



## 第3回図書館実務研修会 ～「接遇のあり方」をテーマに～



図書館には様々な目的をもって、不特定多数の利用者が来館されます。図書館職員はこのような利用者に対して、等しくサービスを行うために、充分な配慮に努めています。しかし、時には意思疎通がうまくいかず、トラブルなどの思わぬ事態に陥ることがあります。

今回の研修会では、ホテル日航ハウステンボス総支配人 今村忍氏と宿泊部宿泊課長 中川聰一氏を講師にお迎えし、「接遇のあり方」と題して講演をいただきました。ホテルと図書館では業種の違いはありますが、「接客」が重要であるという点では共通しており、参加した多くの図書館職員にとって、如何に利用者に接すべきかということを、改めて見つめ直してみる良い機会になったのではないかと思います。

## 長崎県公共図書館等協議会表彰団体の紹介

### ◆ 図書ボランティアグループ「おはなしの会 ポケット」松浦市

現在、活動している私たち“おはなしの会ポケット”は、「素敵な図書館がある町で暮らしたい、子育てをしたい！」そんな気持ちの市民の集まり“よか図書館をつくろう会”という市民グループが前身でした。地元にできる新しい図書館に、ぜひ市民の声を生かしてほしい、そして子どもたちがたくさんの本と出会えますように・・。そんな願いの中から活動の一つとして始めたのが子どもたちへの読み聞かせでした。

振り返ると活動も10余年を超え、発足当時まだまだ小さくて、いつも傍らにいたメンバーの子どもたちも、今や大学生や高校生と、すっかり大きくなりました。会場に来てくれる小さなお客様達に、時々、自分たちの小さかった子どもたちを懐かしみながら、活動を続けています。

月に一度の図書館での定例会のおはなし会に加え、毎年12月には、生涯学習センターのホールを借り切ってのクリスマスおはなし会を行っています。クリスマスの時期に合わせたプログラムを考え、地域で活動をしている方をゲストに招いたりするなど交流の輪を広げるきっかけにもなっています。一昨年からは、離島の子どもたちにもお話を届けようと、島でのお会も行っています。また、地域の大きなイベントで、バザーを出店し、そこで得た利益を図書の購入費を使っていただこうと、収益金を寄付しています。会場では、図書館の図書購入費になることを来場者に説明し、図

書館の利用もPRしています。

時折、活動を続ける秘訣について尋ねられることがありますが、メンバーひとりひとりあまり無

理をせずに、ぼちぼち楽しむこと。ちょっとお休みをしても、大丈夫。また、みんなで待ってるからね。そんな雰囲気を大切にしているからかも・・、と答えています。これからも、メンバーの「火事場の馬鹿力」的な能力（笑）を結集して、それぞれが良い年を重ねられると良いなと、メンバー同士話しているところです。

地元の図書館が誕生して今年で10才の誕生日を迎えます。地域の豊かなコミュニティの場所であって欲しい、市民の心や知恵を育む場所であって欲しい、そして何より市民から愛される場所であって欲しい・・。そんな願いを込めて、ささやかでも、私達の力で何かお祝いを、と思っている私達です。

また、図書館の職員の皆さんにはいつも良くしていただき、今回の受賞にあたりましてもたくさんのお力添えがあっての事と、心より深く感謝いたしております。この場をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

（文責 図書ボランティアグループ おはなしの会 ポケット）



### ◆ 図書ボランティアグループ「おはなしのへやぐりとぐら」雲仙市



1冊の絵本が持つ力を借りて、豊かな心を育み、そして生きる力となるようにとの願いで1人から活動が始まりました。

今では13名になり、心を寄せあって12年の歩みとなります。

メンバーの中には小学生を持つお母さん、イチゴ農家や酪農家の主婦もいます。事業で多忙な中での読み語りの練習は、それを見守る子どもとの親子が持つ場になっています。

主な活動は、定期的に保育園や市内にある4つの小学校（昼休み）に出向き、「おはなしのへや」を開いています。また、うち2校では各教室に入り朝の読書を続けてきました。

雲仙市図書館では、「夏まつり、お月見夜ばなし会、クリスマス会」など季節をテーマに「おはなしのへや」を仕立てます。オープニングにはオカリナやファゴットなど普段見慣れない楽器との出会いや、生の演奏を体感してもらっています。また、ゲストに地域の方による落語や、ALTによる英語の語りをして頂き、言葉のリズムや楽しさを届けています。

こうした地域の方々の支えと子どもたちのキラキラしたまなざしや笑顔が私たちの喜びであり励みです。さらに、次なる種を落とすべく高校生に参加してもらい、読み語りの喜びを分かち合っています。

今回、賞を頂いたことは、原点を振り返り精進していくよう背中を押された思いがしています。ぐりとぐらのメンバーの、ほんわか、おっとりした輪が広がり、これからも真摯にたゆまぬ努力を続けていきたいと思います。

（文責 図書館ボランティアグループ おはなしのへやぐりとぐら）

シリーズ

# 県内図書館散歩③

一島原市 島原図書館一

島原図書館は、昭和61年4月に島原城天守閣を仰ぎ見る景勝豊かな堀端に建てられました。当時は県内初のコンピュータによる管理システムを導入した図書館として注目を浴び、現在25年の歴史を有する図書館です。毎週土曜日には、乳・幼児の絵本への興味関心を高めるため、職員による「おはなしのじかん」「おはなしのじかん0・1・2」をはじめ、市内の図書ボランティアによる「おはなしひろば」などを実施しており、毎回、近隣の学童クラブが積極的に参加してくれます。近年は、市内の各学校に配置された学校司書との連携を密にし、学校への団体貸出の推進にも力を入れています。また、市民グループによる自主的な読書会、句会の場としても広く親しまれ、市民の文化的交流の場として定着しています。2階には、藩政時代に蒐集・所蔵されてきた古典籍類を保管している

「松平文庫」も併設され、学者・学徒等の調査研究の対象としても注目・活用されています。



島原図書館 外観



「おはなしのじかん0・1・2」

## ■シリーズ「大河ドラマ『龍馬伝』の舞台 幕末長崎」③

「龍馬伝」終わりましたね。慶應三年（1867）十一月十五日、京都見廻組に襲撃された龍馬瀕死のシーンに選挙情報の字幕が出たときはびっくりしました。NHKに抗議が殺到したとか。

龍馬暗殺犯について、こんな声も聞こえてきました。「龍馬伝」は結構思い切った解釈をしているから、武力討幕を進める薩摩藩にとって龍馬が邪魔になつたとか、下士龍馬の成り上がりを快く思わない土佐藩関係者かと思つていたが、京都伏見見廻組という通説通りだつたといふのです。まあ、ヒーロー龍馬の犯人を薩摩、土佐とする冒険は、地域を重んじるNHKの選択肢にはないのでしょう。

「龍馬伝」終わりましたね。慶應三年（1867）十一月十五日、京都見廻組に襲撃された龍馬瀕死のシーンに選挙情報の字幕が出たときはびっくりしました。NHKに抗議が殺到したとか。

龍馬暗殺犯について、こんな声も聞こえてきました。「龍馬伝」は結構思い切った解釈をしているから、武力討幕を進める薩摩藩にとって龍馬が邪魔になつたとか、下士龍馬の成り上がりを快く思わない土佐藩関係者かと思つていたが、京都伏見見廻組という通説通りだつたといふのです。まあ、ヒーロー龍馬の犯人を

### 「龍馬伝」終了



寄稿者  
長崎県参与 本馬貞夫氏

ちょつと気になることがあります。『岩崎彌太郎日記』（以後『日記』）に龍馬暗殺の記述が全くないのです。かつて、いろは丸事件の際、あれ程協力して御三家紀州藩と対決、八万三千両もの賠償金（のち七万両に減額）を取ることに成功し、龍馬が藩船「夕顔」で上方へ去るとき、涙を流して見送った岩崎弥太郎でした。その弥太郎は龍馬暗殺の当時上方に出張していましたが、十月三十日から十一月十七日まで『日記』の記事が飛んでいます。取りに足らない事件だったのか、明治になつて日記草稿を清書する際、意図的に落としたのか、いろいろ推測できそうです。ところで、龍馬亡き後の海援隊はどうなつたのでしょうか。年明けて鳥羽伏見での徳川軍敗走（慶應四年正月四日）の情報報を確認した長崎奉行 河津伊豆守は、十四日に長崎港を脱出しました。これを受けて土佐藩は「佐々木氏與（海）援隊奪西役所」（『日記』）とあるように、佐々木三四郎と海援隊が長崎奉行所西役所（現県庁）を占拠し、薩摩藩とともに長崎を掌握して、開港場の混乱を未然に防ぐ役割を果たしたのです。

# 「長崎発読書郵便集」第3号刊行のお知らせ

## ◎取組紹介

県立長崎図書館では、県内市町立図書館等と協力し、子どもの読書活動の推進のため、「子ども読書の日（4月23日）」や「こども読書週間（4月23日～5月12日）」における各種啓発活動の一助となるべく、本冊子『長崎発読書郵便集～この感動をあなたへ伝えたい』を発行し、各地域の子ども読書活動推進イベント等で「本との出会い」の契機として活用していただいているところです。

## ◎第3号（平成23年2月刊行）の紹介

今年度も、県内市町立図書館等のご協力をいただき、平成22年6月7日～9月10日までの募集期間において、県内各地域から約950点に及ぶ子どもたちのすばらしい作品を募ることができました。「どの本を読もうかなあ」と迷ったときは、ぜひこの「長崎発読書郵便集 第3号」をご利用ください。



過去に作成いたしました第1号および第2号とともに好評をいただいており、本館のホームページからもご覧になることができますので、併せてご活用ください。 [ホームページアドレス](http://www.lib.pref.nagasaki.jp/) <http://www.lib.pref.nagasaki.jp/>

### 「読書郵便」とは、

友だちや大切な人に読んでもらいたい本を、郵便ハガキ形式で紹介したものです。



第1号

第2号

第3号

## ■■■■■「長崎県の子どもにすすめる本 500選」の紹介 ■■■■■

本県では「朝の読書」をはじめとした全校一斉読書活動や家族10分間読書運動の普及などにより、子どもの読書量は増加しています。しかし、発達段階に応じた選書や幅広い分野の本に親しむという点では、まだ課題があります。そこで、長崎県教育委員会は子どもの読書の質を高めていくための道しるべとして、県内すべての公共図書館の司書や各小・中・高校の司書教諭などの学校図書館担当者に推薦していただいた本の中から、選定委員会において、「長崎県の子どもにすすめる本 500選」を選定いたしました。選定リストでは、人としての生き方を見つめ、豊かな心がはぐくまれるような名作、あるいは、子どもの知的活動を増進し、様々な興味・関心をはぐくむような魅力的な本を、幅広い分野から子どもの発達段階にあわせて紹介しています。

(詳しくは、長崎県教育委員会子ども読書活動推進 ホームページアドレス <http://www.manabi.pref.nagasaki.jp/dokusyo/index.html>)

## 職場体験活動の紹介

～長崎市立滑石中学校 2年 深井佳菜さん・坂中静香さん～



今回長崎県立図書館を職場体験して、初めて知ったことは、県立図書館になんの本があり、中には全国でここしかない本もあるということです。また、この県立図書館では各地の図書館に本を貸し出しており、色々な方の要望にお応えしていることもわかりました。県立図書館は本を貸し出すだけでなく、県内各地の図書館の裏でお手伝いをしていることに驚きました。

# —シリーズ— 100年の歩み 3

第3回目となる今回は、太平洋戦争終戦までをご紹介します。

大正4年8月14日、初代専任館長として永山時英が就任しました。永山館長は積極的な館運営を意図し、まず日比谷図書館から司書を招聘し、分類の設定とカード目録の整備を行っています。対外的な本県の文化活動にも多くの力を注ぎ、「長崎史談会」（第一次）、「長崎美術協会」の設立にも尽力しています。また、現在は長崎歴史文化博物館に移管されている、県古文書、小曾根家蔵書、シーポルト遺品などは、当時郷土史家古賀十二郎らの助言・協力により、本館郷土資料として収集されたものです。

昭和10年2月6日の永山館長の急逝により、同年6月25日、増田廉吉が第2代館長に就任しました。この頃から、館外での図書館活動が盛んになり、昭和14年には県内町村図書館に回覧文庫駐在所を設け、また県下図書館振興講演会を開き啓発活動を行っていました。

一方、昭和6年柳条湖事件にはじまった日本軍による満州侵略は拡大の一途をたどり、当図書館も軍事体制下で昭和13年の「国民精神総動員文庫」の開設など、戦意高揚の一端を担うことになりました。また昭和17年夏以降、戦局が悪化していくなか、昭和19年3月には本館の一部を長崎連隊区司令部に接収されることになりました。

昭和20年8月9日には原爆投下により被災し、蔵書3,000冊が雨漏りのため汚損され、貸出中の図書も敗戦の混乱とともに約1万冊が失われました。

しかし、このような状況下、8月15日の終戦を経て昭和20年10月15日、限定期ではありますが、書庫内で閲覧業務を再開しました。



旧館閲覧室風景



増田廉吉館長



被爆直後浦上天主堂写真

## 〈県立長崎図書館からのお願い〉

卒業・入学・異動の季節です。

借りたままになっている本はありませんか？

万一、返却されていない本がありましたら、ご返却をお願いいたします。

※玄関横の返却ポスト（24時間対応）への返却も可能です。図書館の本は県民共有の財産です。

また、住所等の連絡先の変更があった方は、県立図書館までお知らせください。

## 催し物のご案内

### 第22回（平成23年度 第1回） 県立長崎図書館講座

日時：平成23年5月21日（土）13:30～15:30

場所：県立長崎図書館2階講堂

内容：「長崎の文学の光と影～『五足の靴』の足跡～」

講師：田崎 弘章 氏（佐世保工業高等専門学校教授）

### 平成23年度 「長崎ゆかりの文学展」 (第1回企画展)

場所：県立長崎図書館4階郷土資料展示室

時間：9:30～17:00（ただし休館日を除く）

内容：「長崎の文学の光と影～五足の靴の青年たち～」

期間：平成23年4月26日（火）～6月26日（日）

編集・発行 長崎県立長崎図書館 長崎市立山1丁目1番51号

ISSN 1344-5235 ホームページアドレス <http://www.lib.pref.nagasaki.jp>

**R70** この広報誌は、環境に配慮した再生紙を使用しています。